



Job Arranger インストールガイド(β版)

変更履歴

版数	変更日付	内容
初版	2012/11/30	初版発行
2	2012/12/05	「4.2.2 Firewall の設定」「4.3.2 Firewall の設定」を追記

目次

1	システム構成	7
2	システム要件	8
2.1	ジョブサーバー	8
2.1.1	対応 OS 一覧	8
2.1.2	ハードウェア要件	8
2.1.3	ソフトウェア要件	8
2.2	ジョブエージェント	9
2.2.1	対応 OS 一覧	9
2.2.2	ハードウェア要件	9
2.2.3	ソフトウェア要件	9
2.3	ジョブマネージャ	10
2.3.1	対応 OS 一覧	10
2.3.2	ハードウェア要件	10
2.3.3	ソフトウェア要件	10
3	インストール	11
3.1	ジョブサーバー	12
3.1.1	ソースコードの取得	12
3.1.2	jobarg-server インストール	12
3.2	ジョブエージェント(UNIX 版)	13
3.2.1	jobarg-agent インストール	13
3.3	ジョブエージェント(Windows 版)	14
3.3.1	ソースコードの取得	14
3.3.2	Installer の実行	15

3.4 ジョブマネージャ	19
3.4.1 ソースコードの取得	19
3.4.2 Installer の実行	20
4 実行環境セットアップ	24
4.1 ジョブサーバー	24
4.1.1 データベースへの初期データ登録	24
4.1.2 jobarg_server.conf の設定	24
4.1.3 自動起動設定	27
4.2 ジョブエージェント(UNIX 版)	28
4.2.1 jobarg_agentd.conf の設定	28
4.2.2 Firewall の設定	30
4.2.3 自動起動設定	30
4.2.4 jasender.sh の設定	31
4.3 ジョブエージェント(Windows 版)	32
4.3.1 jobarg_agentd.conf の設定	32
4.3.2 Firewall の設定	34
4.3.3 ジョブエージェントの起動	41
4.4 ジョブマネージャ	43
4.4.1 ODBC 設定	43
4.4.2 jobarg_manager.conf の編集	47
4.4.3 ジョブマネージャ起動	48
5 アンインストール	49
5.1 ジョブサーバー	49
5.2 ジョブエージェント	50
5.2.1 UNIX 版	50
5.2.2 Windows 版	51

5.3 ジョブマネージャ	54
--------------------	----

はじめに

このインストールガイドは、JobArranger を利用する人をサポートする目的で配布されますが、市場性または特定目的に対する適合性を含みいかなる保証も一切行うものではありません。このインストールガイドは JobArranger ソフトウェアの一部として配布されます。

最新版は <https://oss-support.fitechforce.co.jp/redmine/projects/job-arranger-for-zabbix/repository> から入手できます。

JobArranger インストールガイドは、GPL ライセンスではなく、以下の条項に従って配布および利用するものとします。

- ・ 他の形式に翻訳および変換することは許可されますが、いかなる方法によっても内容を変更または編集することは禁じられています。
- ・ 個人で使用する場合は印刷物の作成が許可されます。
- ・ その他の利用目的、たとえば印刷物を販売する場合または別の出版物(印刷物または電子的)でこのインストールガイド(の一部)を引用する場合は、Fitechforce 社からの事前の書面による合意が必要です。

The Job Arranger Manual is not released under GPL. Use of the Manual is a subject to the following terms:

conversions to other formats is allowed, but the actual content may not be altered or edited in any way you may create a printed copy for your personal use for all other uses, such as selling printed copies or using (parts of) the Manual in another publication, prior written agreement from FitechForce Company is required

1 システム構成

JobArranger は、以下の3つのコンポーネントから構成されています。

■ ジョブサーバー

ジョブの実行管理を行うサーバです。データベース上に保持しているジョブネットやスケジュール、カレンダーの情報を基に、各ジョブエージェントに対して、ジョブの操作指示を行っています。

Zabbix のデータベースを使用することにより、ホストやユーザ、アクセス権限情報を共有しています。

■ ジョブエージェント

ジョブの実行を行うサーバです。ジョブエージェントはジョブサーバーから受けた指示を実行し、その結果を返します。

SQLite を使用することにより、Agent 再起動時など、ジャーナルファイルから Job の実行状態を最新の状態に回復できるようにしています。

■ ジョブマネージャ

ジョブネットの編集やジョブ稼働状況の確認を行うためのクライアント端末です。この機能は GUI ベースの Windows アプリケーションにて提供します。

Zabbix のデータベースを使用することにより、ホストやユーザ、アクセス権限情報を共有しています。

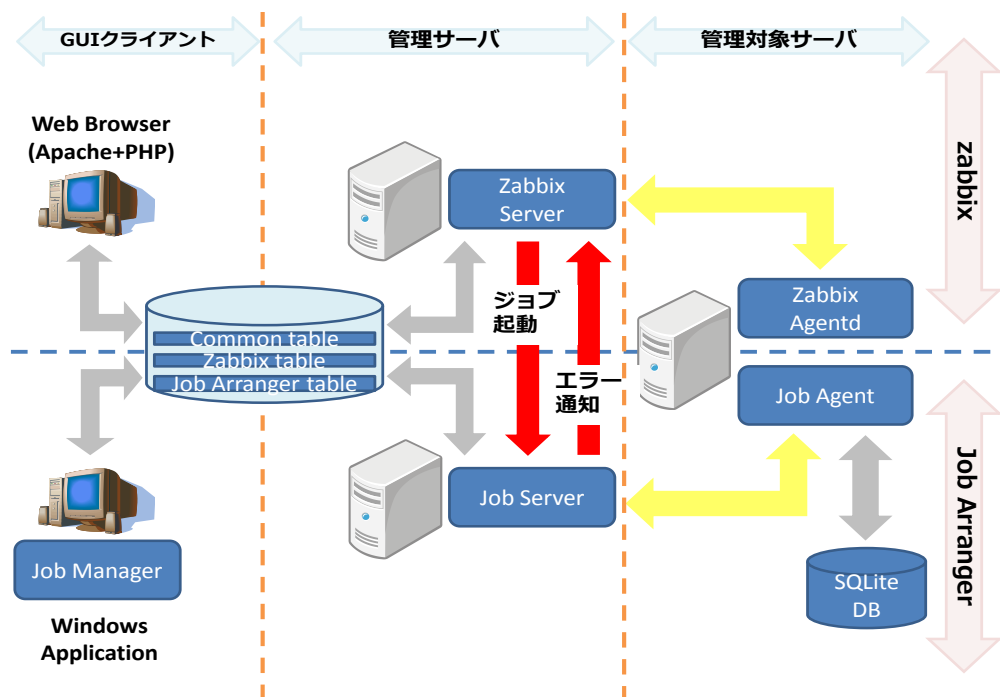


図 1-1 Job Arranger システム構成

2 システム要件

各コンポーネントに必要な要件を説明します。

2.1 ジョブサーバー

2.1.1 対応 OS 一覧

ジョブサーバーの対応しているプラットフォームは以下の通りです。

表 2-1 対応 OS 一覧

対応 OS	バージョン
Linux	Red Hat Enterprise Linux 5.x 以降
	CentOS 5.x 以降

2.1.2 ハードウェア要件

ジョブサーバーを稼働させるために必要なハードウェア要件は以下の通りです。

表 2-2 ハードウェア要件

項目	スペック
CPU	Pentium4 以降
メモリ	30MB 以上
HDD	4GB 以上

2.1.3 ソフトウェア要件

ジョブサーバーを稼働させるために必要なソフトウェア要件は以下の通りです。

表 2-3 ソフトウェア要件

ソフトウェア	バージョン
MySQL	5.5 以降

2.2 ジョブエージェント

2.2.1 対応 OS 一覧

ジョブエージェントの対応しているプラットフォームは以下の通りです。

表 2-4 対応 OS 一覧

対応 OS	バージョン
Linux	Red Hat Enterprise Linux 5.x 以降
	CentOS 5.x 以降
Windows	Microsoft Windows 2003
	Microsoft Windows 2008 SP2 以降
	Microsoft Windows 2008 R2

2.2.2 ハードウェア要件

ジョブエージェントを稼働させるために必要なハードウェア要件は以下の通りです。

表 2-5 ハードウェア要件

項目	スペック
CPU	特別な要件無し
メモリ	20MB 以上
HDD	40MB 以上

2.2.3 ソフトウェア要件

特に無し

2.3 ジョブマネージャ

2.3.1 対応 OS 一覧

ジョブマネージャの対応しているプラットフォームは以下の通りです。

表 2-6 対応 OS 一覧

対応 OS	バージョン
Windows	Microsoft Windows XP SP3 以降

2.3.2 ハードウェア要件

ジョブマネージャを稼働させるためのハードウェア要件は以下の通りです。

表 2-7 ハードウェア要件

項目	スペック
CPU	Pentium4 以降
メモリ	512MB 以上
HDD	20MB 以上

2.3.3 ソフトウェア要件

ジョブマネージャを稼働させるためのソフトウェア要件は以下の通りです。

表 2-8 ソフトウェア要件

項目	バージョン
MySQL Connector/ODBC	5.1 推奨

3 インストール

本章では各コンポーネントのインストール方法について説明します。

※前提として、Zabbix のセットアップが完了していることとします。

3.1 ジョブサーバー

3.1.1 ソースコードの取得

JobArranger のソースコードを下記の URL よりダウンロードして展開します。

```
# cd /usr/local/src
# wget
https://oss-support.fitechforce.co.jp/redmine/projects/job-arranger-for-zabbix/repository/raw/*.*.*job
arranger-src-*. *.*.zip
# unzip jobarranger-src-*. *.*.zip
```

3.1.2 jobarg-server インストール

① コンパイルの準備を行います。

```
# cd jobarranger-*. *.*
# ./configure --enable-server --with-mysql
```

② コンパイルを実行して、インストールします。

```
# make
# make install
```

デフォルトでは、全てのファイルが /usr/local 配下にインストールされます。変更したい場合は、configure のオプションで --prefix を使用し、任意の場所を指定して実行してください。

表 3-1 オプション一覧

オプション名	説明
--enable-server	ジョブサーバーのバイナリをコンパイルします。
--with-mysql	ジョブサーバーのデータベースに MySQL を指定します。
--prefix=対象ディレクトリ	指定されたディレクトリにインストールをします。

3.2 ジョブエージェント(UNIX 版)

3.2.1 jobarg-agent インストール

前提として、sqlite3/json-C のインストールが完了していることとします。

以下のサイトよりダウンロードし、インストールしてください。

【sqlite3】

<http://www.sqlite.org/>

【json】

<http://oss.metaparadigm.com/json-c/>

① コンパイルの準備を行います。

```
# ./configure --enable-agent --enable-static --with-sqlite3=XXXX --with-json=XXXX
```

※「XXXX」にはライブラリがインストールされているディレクトリを指定します。

※-enable-static を利用する際に、glibc-static パッケージが必要となります。

② コンパイルを実行して、インストールします。

```
# make
# make install
```

デフォルトでは、全てのファイルが/usr/local 配下にインストールされます。変更したい場合は、configure のオプションで--prefix を使用し、任意の場所を指定して実行してください。

表 3-2 オプション一覧

オプション名	説明
--enable-agent	ジョブエージェントのバイナリをコンパイルします。
--with-sqlite3	ジョブエージェントのデータベースに SQLite を指定します。
--with-json	ジョブエージェントで JSON を利用する場合に指定します。
--prefix=対象ディレクトリ	指定されたディレクトリにインストールをします。

※server と agent を同時にコンパイルすることも可能です。

```
# ./configure --enable-server --with-mysql --enable-agent --enable-static
--with-sqlite3=XXXX --with-json=XXXX
# make
# make install
```

3.3 ジョブエージェント(Windows 版)

3.3.1 ソースコードの取得

ジョブエージェントのソースコードを以下の URL よりダウンロードします。

【ダウンロードサイト】

<https://oss-support.fitechforce.co.jp/redmine/projects/job-arranger-for-zabbix/repository>

【対象ファイルパス】

- ・ %build%win%project%jobarranger%setup%Release

【対象ファイル】

- ・ Job Arranger Agent.msi
- ・ setup.exe

3.3.2 Installer の実行

Installer を以下の通り実行し、ジョブエージェントをインストールします。

なお、Installer の実行には administrator 権限が必要となります。

- ① ダウンロードした Installer をダブルクリックし、起動します。
- ② Job Arranger Agentd セットアップウィザードが起動されたら、「次へ」ボタンを押下します。

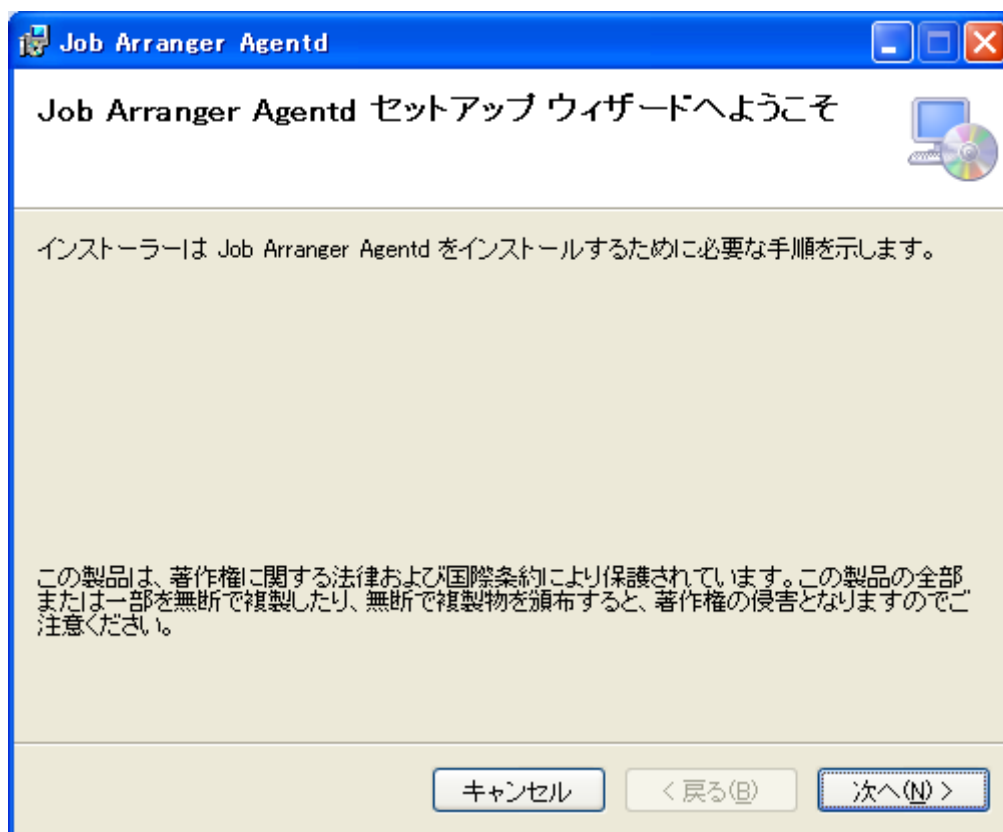


図 3-1 Job Arranger Agentd セットアップ画面

- ③ ジョブエージェントのインストールフォルダを指定し、「次へ」ボタンを押下します。



図 3-2 インストールフォルダの選択

- ④ 「次へ」 ボタンを押下すると、インストールが開始されます。

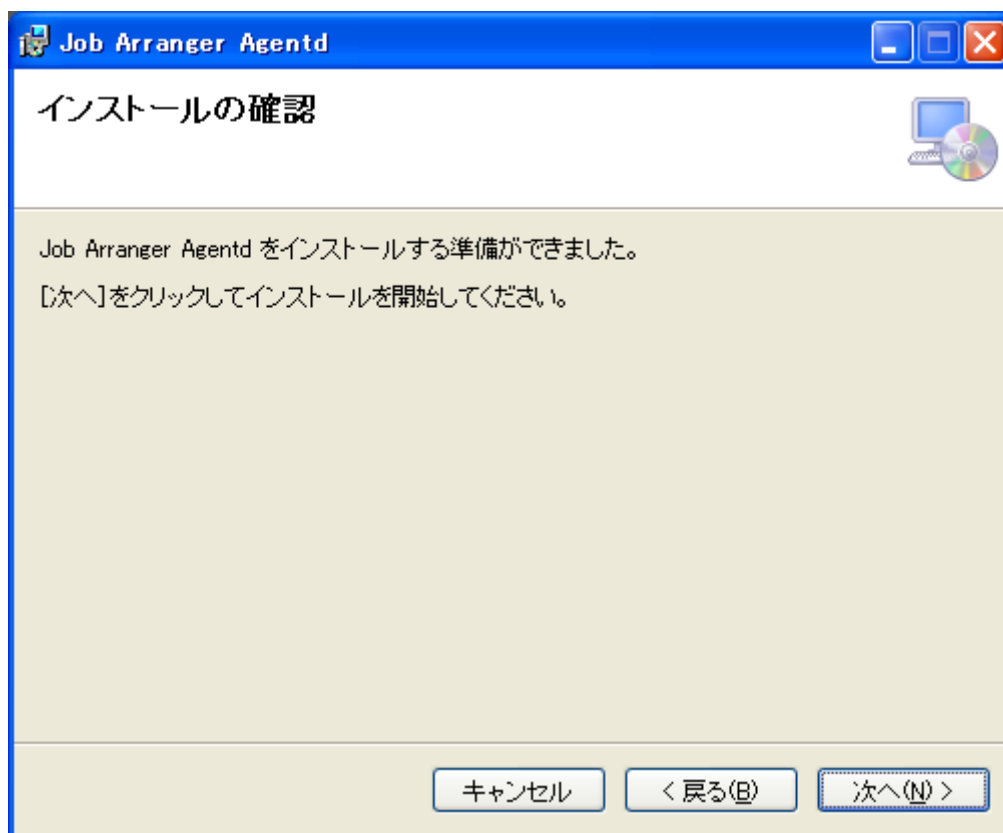


図 3-3 インストールの確認

- ⑤ インストールが完了しましたら、下記の画面が表示されますので、「閉じる」ボタンを押下します。

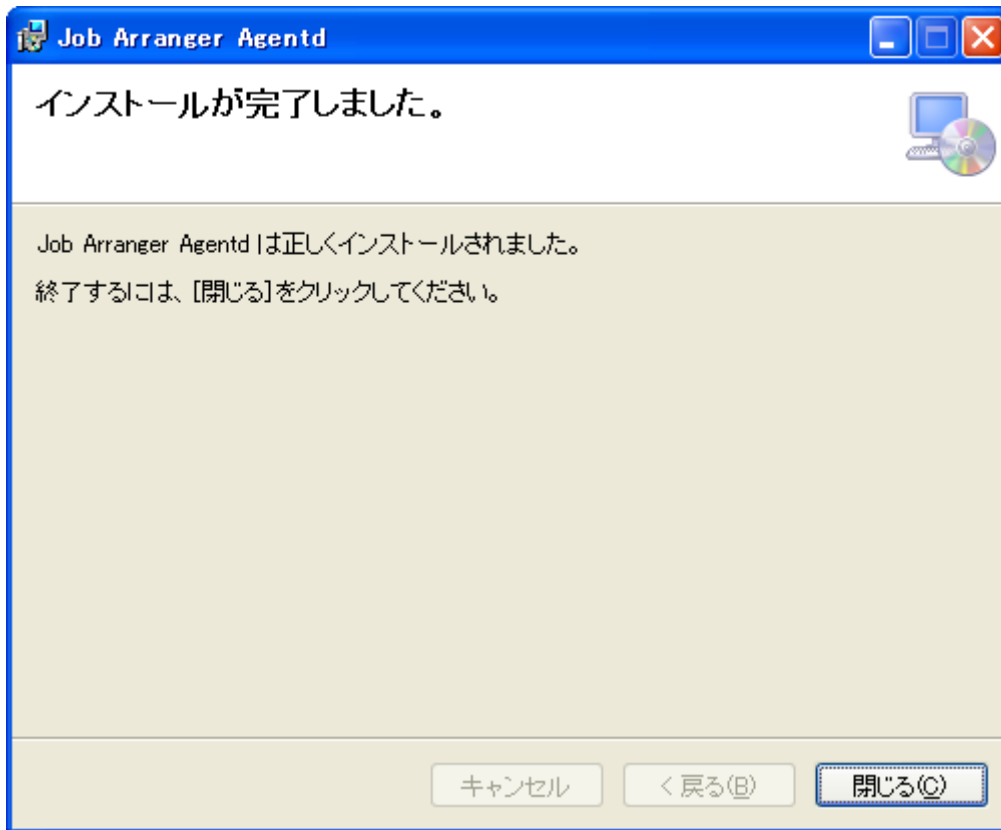


図 3-4 インストール完了画面

インストール後、サービスヘジョブエージェントが自動登録されます。

また、スタートメニューにジョブエージェントの起動と停止ショートカットが作成されます。

3.4 ジョブマネージャ

3.4.1 ソースコードの取得

ジョブマネージャのソースコードを以下の URL よりダウンロードします。

【ダウンロードサイト】

<https://oss-support.fitechforce.co.jp/redmine/projects/job-arranger-for-zabbix/repository>

【対象ファイルパス】

- ・ ¥frontend¥jobarg_manager¥Setup¥Release

【対象ファイル】

- ・ Job Arranger Manager.msi
- ・ setup.exe

また、以下の作業が完了していることが前提条件となります。

- データベースに JobArranger テーブルが追加されていること([5.1.1 データベースへの初期データ登録]参照)
- ODBC Driver がインストールされていること

【ダウンロードサイト】

MySQL Connector/ODBC : <http://dev.mysql.com/downloads/>

3.4.2 Installer の実行

Installer を以下の通り実行し、ジョブマネージャをインストールします。

- ① ダウンロードした Installer をダブルクリックし、起動します。
- ② Job Arranger Manager セットアップウィザードが起動されたら、「次へ」 ボタンを押下します。



図 3-5 Job Arranger Manager セットアップ画面

- ③ ジョブマネージャのインストールフォルダを指定し、「次へ」ボタンを押下します。

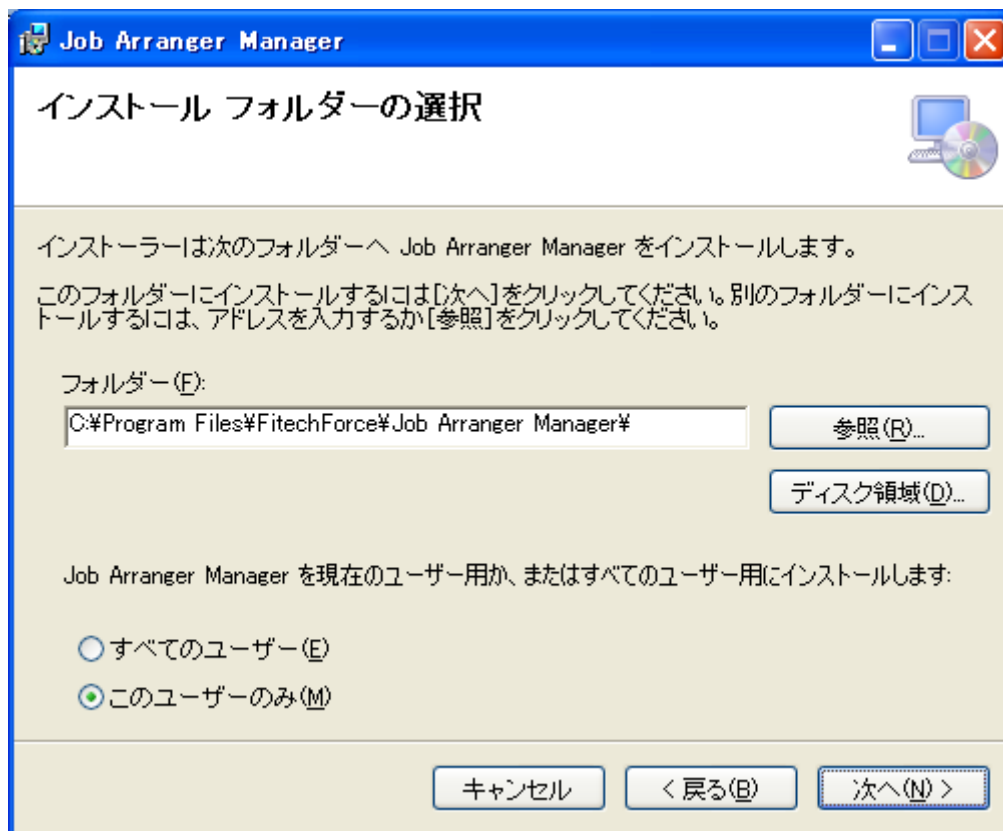


図 3-6 インストールフォルダの選択

- ④ 「次へ」 ボタンを押下すると、インストールが開始されます。

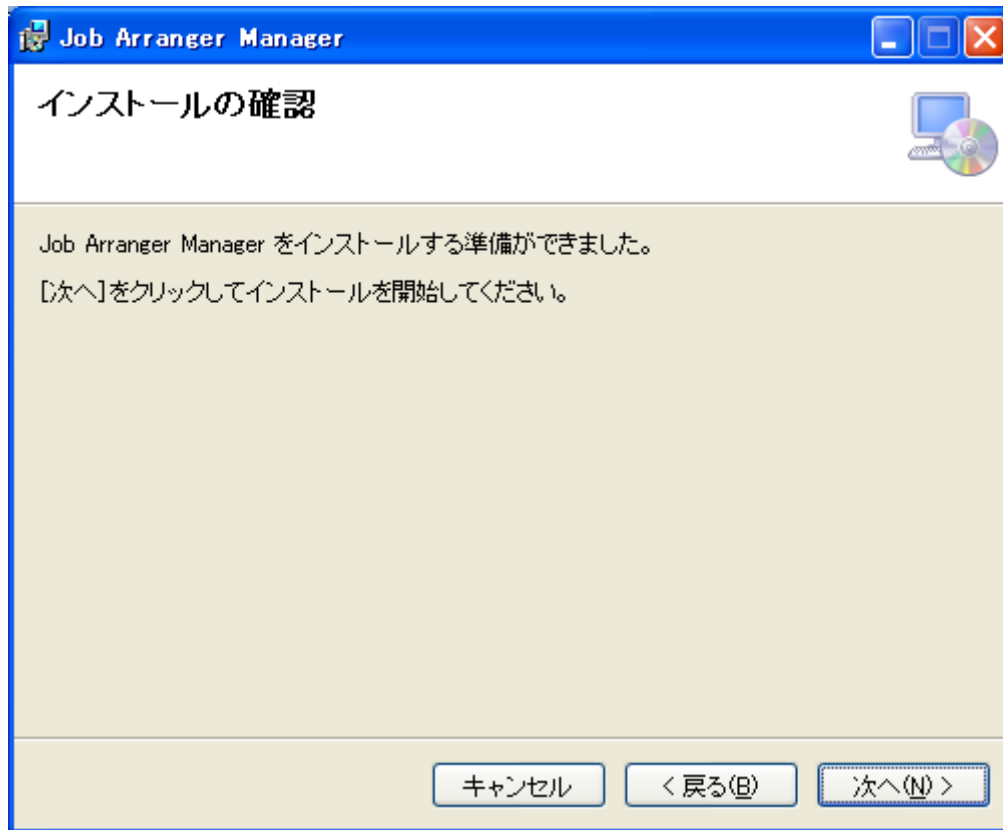


図 3-7 インストールの確認

- ⑤ インストールが完了しましたら、下記の画面が表示されますので、「閉じる」ボタンを押下します。

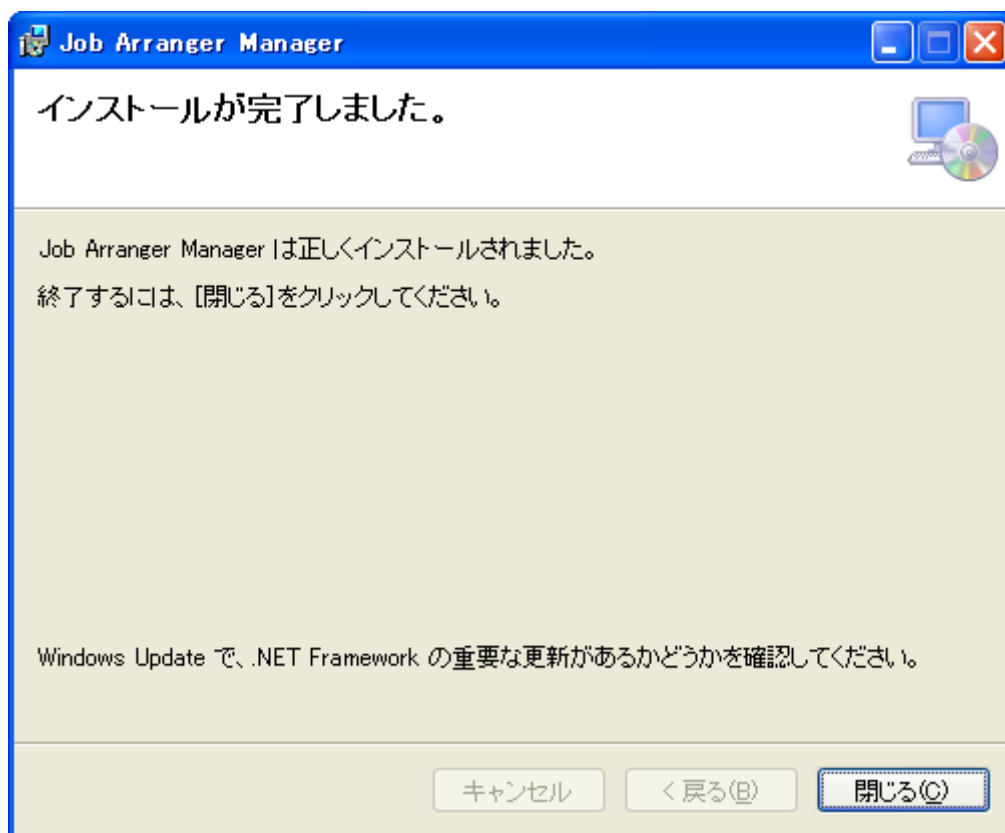


図 3-8 インストール完了画面

4 実行環境セットアップ

4.1 ジョブサーバー

4.1.1 データベースへの初期データ登録

Zabbix データベースに JobArranger の初期データをインポートします。

```
# cd /usr/local/src/jobarranger/trunk/database/mysql
# cat MySQL_JA_CREATE_TABLE.sql | mysql -u<username> -p<password> <zabbix データベース名>
```

4.1.2 jobarg_server.conf の設定

/usr/local/etc/jobarranger/jobarg_server.conf を環境に合わせて設定をします。

表 4-1 jobarg_server.conf パラメーター一覧

パラメータ	必須	初期値	説明
TmpDir	×	/tmp ※コメントアウトされています。	テンポラリディレクトリの場所を設定してください。
DBHost	×	Localhost ※コメントアウトされています。	データベースが localhost 以外の場合はコメントを外して設定してください。
DBName	○		使用するデータベース名を設定してください。
DBShema	×	※コメントアウトされています。	設定不要。
DBUser	×		使用するデータベース接続ユーザ名を設定してください。
DBpassword	×		使用するデータベース接続ユーザのパスワードを設定してください。
DBSocket	×	/tmp/mysql.sock ※コメントアウトされています。	MySQL の接続にソケットを使用する場合はコメントを外して設定してください。
DBPort	×	3306 ※コメントアウトされています。	データベースポートを設定してください。 ローカルソケットの場合データベースポートは使用されません。

LogSlowQueries	×	※コメントアウトされています。	クエリが指定したミリ秒以上要した場合にログファイルにクエリを出力します。
JaStartTrappers	×	5 ※コメントアウトされています。	trapper のインスタンス数を設定してください。
JaTimeout	×	3 (秒) ※コメントアウトされています。	エージェント、外部チェックのタイムアウトを設定してください。
JaListenIP	×	0.0.0.0 ※コメントアウトされています。	trapper が listen する IP アドレスをカンマ区切りで設定してください。 設定が存在しない場合、全ネットワークインタフェースで待ち受けます。
JaSourceIP	×	※コメントアウトされています。	接続に使用するソース IP アドレスを設定してください。
JaPidFile	×	/tmp/jobarg_server.pid	サーバの Pid ファイルの保管場所/ファイル名を設定してください。
JaDebugLevel	×	3	デバッグの出力レベルを設定してください。 0 - 出力なし 1 - クリティカル情報 2 - エラー情報 3 - 警告 4 - デバッグ 情報(大量の情報が出力されます)
JaLogFile	×	/tmp/jobarg_server.log	サーバのログファイルの保管場所/ファイル名を設定してください。
JaLogFileSize	×	1024	ログファイルの最大サイズ(MB 単位)を設定してください。 0 - 自動ログローテーション無効
JajobnetInterval	×	1 (秒) ※コメントアウトされています。	ジョブネットの開始実行や終了ステータスを判定するプロセス(jajobnet)のポーリング間隔。
JarunInterval	×	1 (秒) ※コメントアウトされています。	ジョブの実行を行うプロセス(jarun)のポーリング間隔。
JajobInterval	×	1 (秒) ※コメントアウトされています。	ジョブの強制停止やタイムアウト監視を行うプロセス(jajob)のポーリング間隔。
JabootInterval	×	1 (秒) ※コメントアウトされています。	ジョブネットのステータス更新や終了したジョブネット情報の削除を行うプロセス(jaboot)のポーリング間隔。
JaloaderInterval	×	1 (秒) ※コメントアウトされています。	スケジュールに登録されたカレンダーと起動時刻を元に、ジョブネットとジョブフローの実行管理情報を DB に事前展開するプロセス(jaloader)のポーリング間隔。

JaJobTimeout	×	30 (回) ※コメントアウトされています。	ジョブのタイムアウトチェックを行う間隔 JaJobTimeout*JaJobInterval 秒でチェックする。
JaAgentListenPort	×	10055 ※コメントアウトされています。	ジョブエージェントのポート番号。
JatrappertListenPort	×	10061 ※コメントアウトされています。	エージェントからの結果を受信するプロセス(jatrappert)のポート番号。
JaExtjobPath	○		拡張ジョブアイコンの格納先を設定してください。通常は以下を指定してください。(※1) /usr/local/etc/jobarranger/extendedjob
JaErrorCmdPath	○		エラー発生時、ジョブサーバに実行させたいコマンドが置かれているパスを指定してください。通常は以下を指定してください。 /usr/local/etc/jobarranger/alert
JaLogMessageFile	○		以下を指定してください。 (32bit 版) /usr/local/etc/jobarranger/locale/logmessage_32BIT.txt (64bit 版) /usr/local/etc/jobarranger/locale/logmessage_64BIT.txt
JaMessageFile	○		以下を指定してください。 (日本語版) /usr/local/etc/jobarranger/locale/jamessage_ja_JP_UTF-8.txt (英語版) /usr/local/etc/jobarranger/locale/jamessage_en.txt

(※1) Zabbix への通知機能を有効化するために、Zabbix_sender コマンドをここに配置してください。

4.1.3 自動起動設定

jobarg-server のサービス自動起動設定を行います。

- ① 起動スクリプトのコピーを行います。

```
# cp misc/init.d/<OS 名>/jobarg-server /etc/init.d/  
# chmod 755 /etc/init.d/jobarg-server
```

- ② /etc/init.d/jobarg-server の編集を行います。

```
JOBARG=/usr/local/sbin/jobarg_server  
CONF=/usr/local/etc/jobarranger/jobarg_server.conf  
PIDFILE=/tmp/jobarg_server.pid
```

- ③ jobarg-server を起動させます。

```
# /etc/init.d/jobarg-server start
```

- ④ 自動起動設定を行います。

```
# chkconfig jobarg-server on
```

4.2 ジョブエージェント(UNIX 版)

4.2.1 jobarg_agentd.conf の設定

/usr/local/etc/jobarranger/jobarg_agentd.conf を環境に合わせて設定をします。

表 4-2 jobarg_agentd.conf パラメーター一覧

パラメータ	必須	初期値	説明
JaPidFile	×	/tmp/jobarg_agentd.pid ※コメントアウトされています。	エージェントの Pid ファイルの保管場所/ファイル名を設定してください。
JaLogFile	×	/tmp/jobarg_agentd.log	エージェントのログファイルの保管場所/ファイル名を設定してください。
JaLogFileSize	×	1	ログファイルの最大サイズ(MB 単位)を設定してください。 0 - 自動ログローテーション無効
JaDebugLevel	×	3	デバッグの出力レベルを設定してください。 0 - 出力なし 1 - クリティカル情報 2 - エラー情報 3 - 警告 4 - デバッグ 情報(大量の情報が出力されます)
Server	×	127.0.0.1	ジョブコントローラーの IP アドレスを設定してください。
JaServerPort	×	10061	ジョブサーバのポート番号
JaListenIP	×	0.0.0.0 ※コメントアウトされています。	エージェントが listen する IP アドレスをカンマ区切りで設定してください。
JaListenPort	×	10055	エージェントが、サーバーとの接続に使用するポートを設定してください。
JaTimeout	×	3 (秒) ※コメントアウトされています。	処理がタイムアウトになる秒数を設定してください。
JaHostname	×	※コメントアウトされています。	エージェントのホスト名を設定してください。

JaSendRetry	×	30	ジョブサーバへのデータ送信エラーが発生した場合のリトライ回数
JaDatabaseFile	○	/tmp/jobarg_agentd.db	SQLite で利用するファイル名を指定してください。
JaJobHistory	×	1 (日)	SQLite にジョブ実行情報を保存しておく期間を指定してください。
JaBackupTime	×	24 (時間)	データベースのバックアップ取得開始時間を指定してください。
JaExtjobPath	○	/usr/local/etc/jobarranger/extendedjob	Jobarg_command が存在するディレクトリを指定してください。
JaTmpDir	○	/tmp	テンポラリディレクトリの場所を設定してください。

4.2.2 Firewall の設定

ジョブサーバと通信を行うために、ファイアウォールの通信許可設定を行う必要があります。

/etc/sysconfig/iptables を開き、jobarg_agentd.conf の「JaListenPort」に記載されているポート番号を iptables に記載し、解放させてください。

その後、ファイアウォールを再起動させてください。

4.2.3 自動起動設定

jobarg-agent のサービス自動起動設定を行います。

- ① 起動スクリプトのコピーを行います。

```
# cp misc/init.d/<OS 名>/jobarg-agent /etc/init.d/  
# chmod 755 /etc/init.d/jobarg-agent
```

- ② /etc/init.d/jobarg-agent の編集を行います。

```
JOBARG=/usr/local/sbin/jobarg_agent  
CONF=/usr/local/etc/jobarranger/jobarg_agentd.conf  
PIDFILE=/tmp/jobarg_agent.pid
```

- ③ jobarg-server を起動させます。

```
# /etc/init.d/jobarg-agent start
```

- ④ 自動起動設定を行います。

```
# chkconfig jobarg-agent on
```

4.2.4 jasender.sh の設定

JobArranger でエラーが発生した際に、「jasender.sh」を使用して Zabbix へエラー通知を行います。これにより Zabbix のトリガ画面やイベント画面に JobArranger で発生したエラー内容を表示させることができます。

/usr/local/etc/jobarranger/alert/jasender.sh を環境に合わせて設定をします。このシェルスクリプトはエラー発生時に、ジョブサーバから実行されます。

jasender.sh は内部で「zabbix_sender」を呼び出しているため、前提として Zabbix にて jasender 通知用の Items と Trigger を作成しておく必要があります。

表 4-3 jasender.sh パラメーター一覧

パラメータ	説明
ZABBIX_SERVER	Zabbix サーバの IP アドレスを設定してください。
ZABBIX_PORT	Zabbix サーバのポート番号を設定してください。
ZABBIX_SENDER	zabbix_sender が格納されているパスを設定してください。
KEY	Items で設定した key を設定してください。
HOST	エージェントのホスト名を設定してください。

4.3 ジョブエージェント(Windows 版)

4.3.1 jobarg_agentd.conf の設定

C:\Program Files\FitechForce\Job Arranger Agent\conf\jobarg_agentd.conf の以下の項目について設定をします。

表 4-4 jobarg_agentd.conf パラメーター一覧

パラメータ	必須	初期値	説明
JaPidFile	×	※コメントアウトされています。	エージェントの Pid ファイルの保管場所/ ファイル名を設定してください。
JaLogFile	×	C:\ProgramFiles\FitechForce\JobArranger Agentd\logs\jobarg_agentd.log	エージェントのログファイルの保管場所/ ファイル名を設定してください。
JaLogFileSize	×	1	ログファイルの最大サイズ(MB 単位)を設定してください。 0 - 自動ログローテーション無効
JaDebugLevel	×	3	デバックの出力レベルを設定してください。 0 - 出力なし 1 - クリティカル情報 2 - エラー情報 3 - 警告 4 - デバッグ 情報(大量の情報が出力されます)
Server	×	127.0.0.1	ジョブコントローラーの IP アドレスを設定してください。
JaServerPort	×	10061	ジョブサーバのポート番号
JaListenIP	×	0.0.0.0 ※コメントアウトされています。	エージェントが listen する IP アドレスを カンマ区切りで設定してください。
JaListenPort	×	10055	エージェントが、サーバーとの接続に使用する ポートを設定してください。
JaTimeout	×	3 (秒) ※コメントアウトされています。	処理がタイムアウトになる秒数を設定し てください。

JaHostname	×	※コメントアウトされています。	エージェントのホスト名を設定してください。
JaSendRetry	×	30	ジョブサーバへのデータ送信エラーが発生した場合のリトライ回数」
JaDatabaseFile	○	C:¥ProgramFiles¥FitechForce¥JobArranger Agentd¥database¥jobarg_agentd.db	SQLite で利用するファイル名を指定してください。
JaJobHistory	×	1 (日)	SQLite にジョブ実行情報を保存しておく期間を指定してください。
JaBackupTime	×	24 (時間)	データベースのバックアップ取得開始時間を指定してください。
JaExtjobPath	○	C:¥ProgramFiles¥FitechForce¥JobArranger Agentd¥conf¥extendedjob	Jobarg_command が存在するディレクトリを指定してください。
JaTmpDir	○	C:¥ProgramFiles¥FitechForce¥JobArranger Agentd¥temp	テンポラリディレクトリの場所を設定してください。

4.3.2 Firewall の設定

ジョブサーバと通信を行うために、Windows ファイアウォールの通信許可設定を行います。

- ① 「スタート」→「コントロールパネル」→「Windows ファイアウォール」をクリックし、開きます。

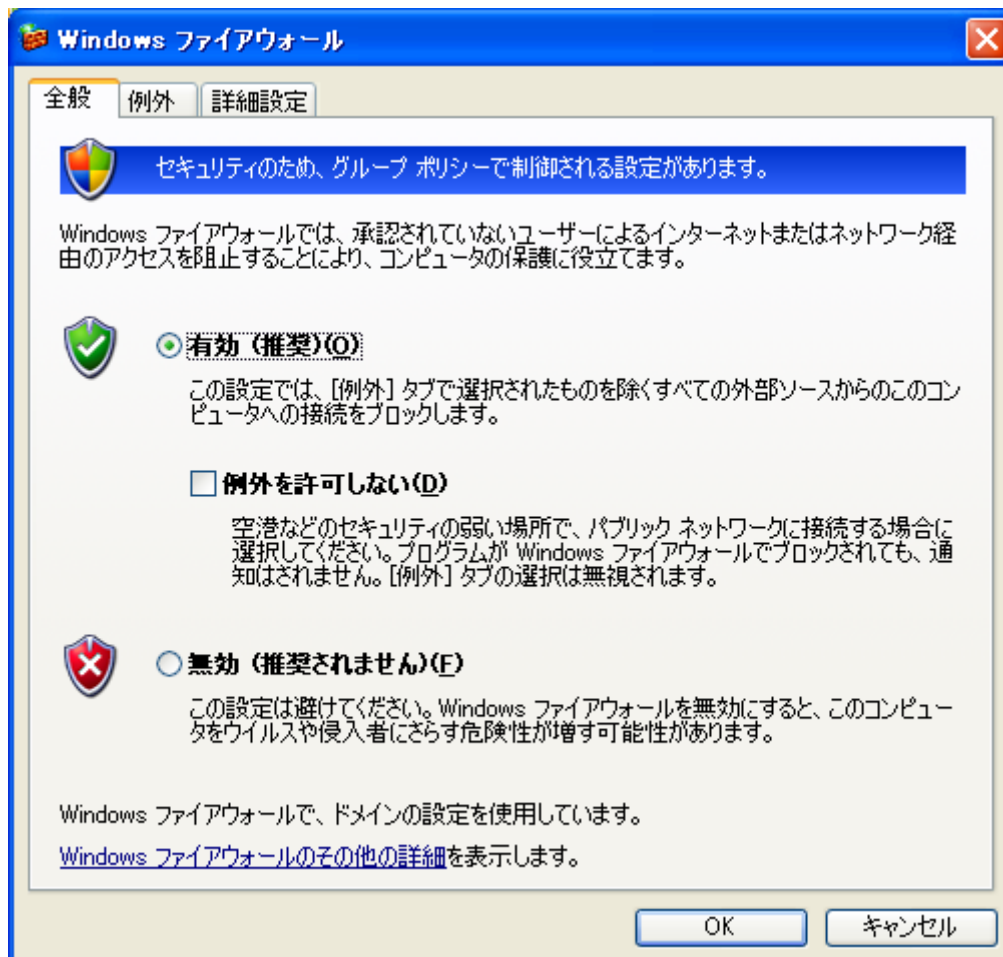


図 4-1 Windows ファイアウォール設定画面

- ② [例外]タブをクリックし、プログラムおよびサービス一覧を表示させます。

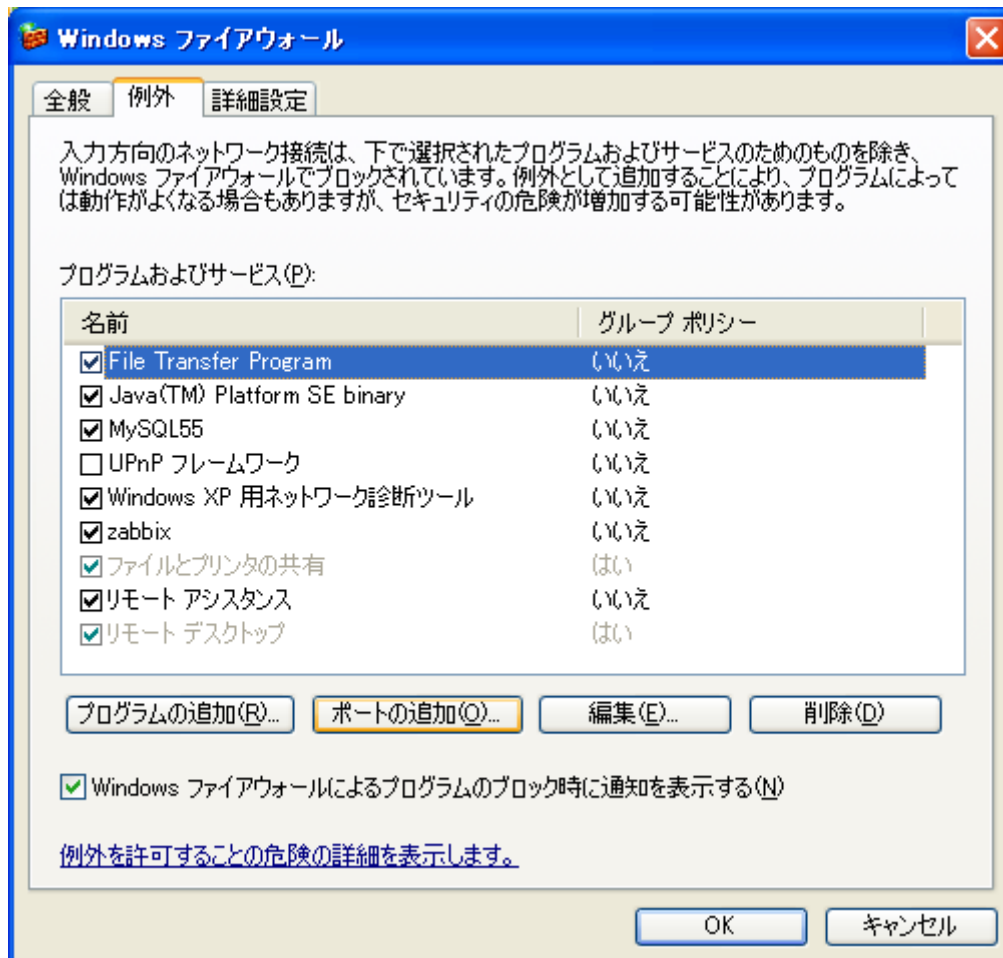


図 4-2 登録前のプログラムおよびサービス一覧

- ③ [プログラムの追加]ボタンを押下し、プログラムの追加画面を表示させます。

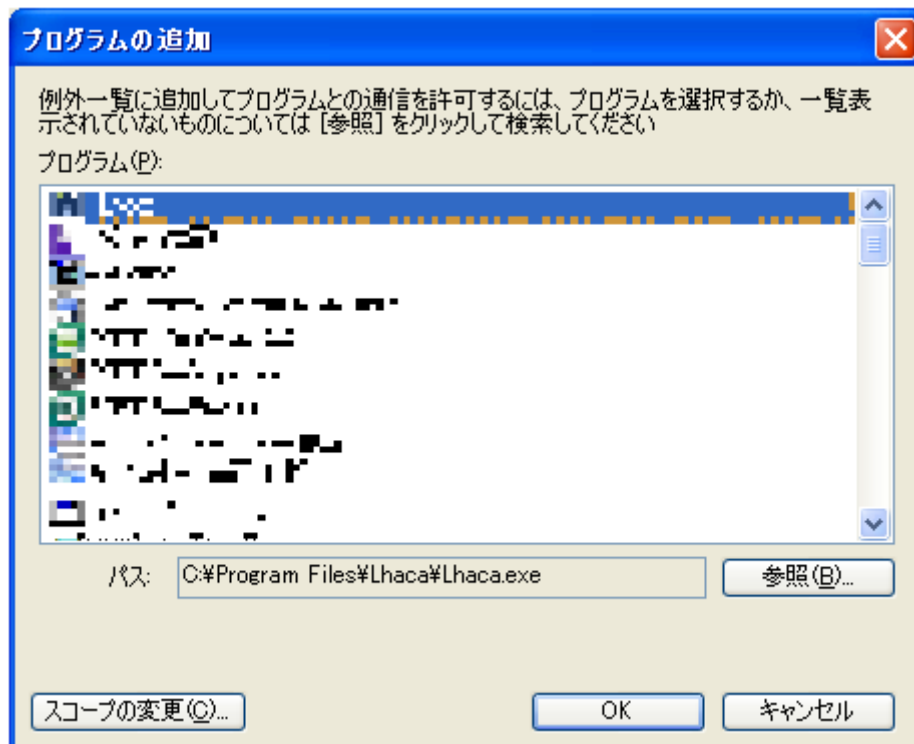


図 4-3 登録前のプログラムの追加画面

- ④ [参照]ボタンを押下し、ファイル参照画面を表示させます。

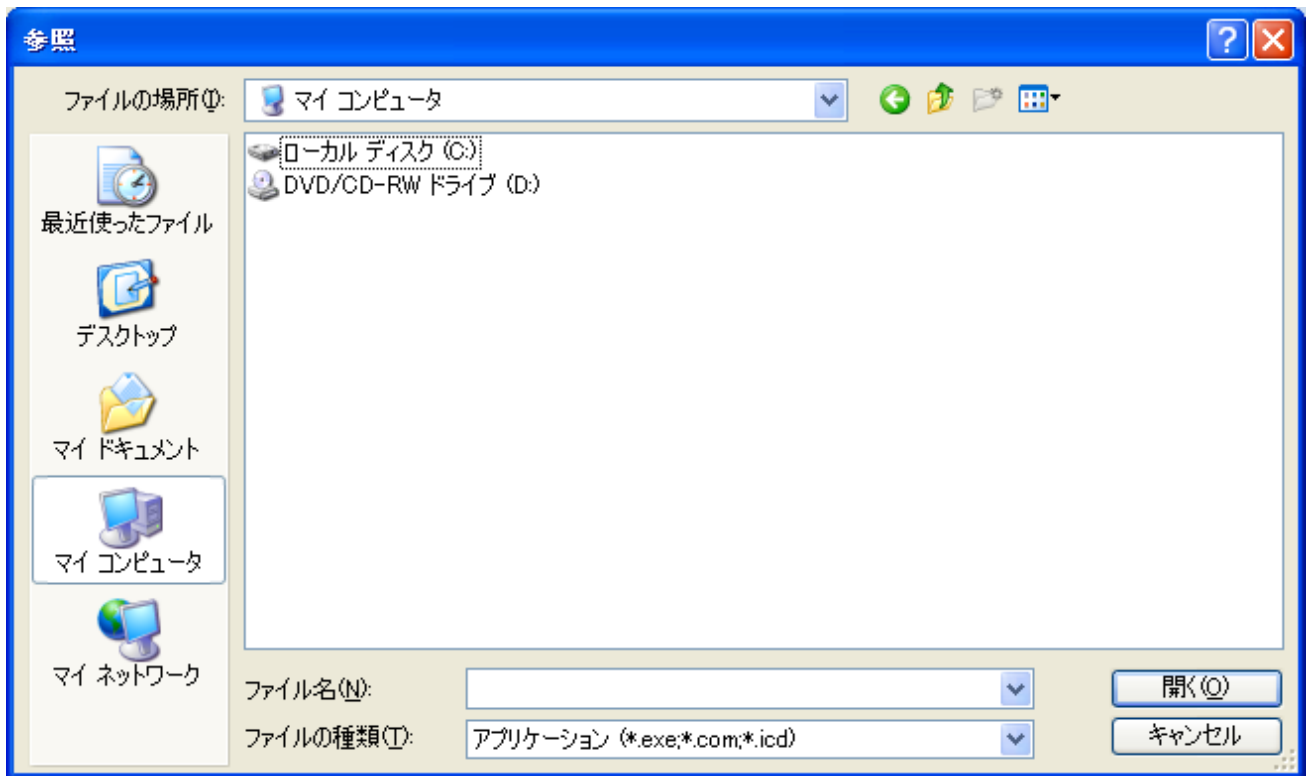


図 4-4 ファイル参照画面

- ⑤ 「C:\Program Files\FitechForce\Job Arranger Agent\bin\jobarg_agentd.exe」を選択し、[開く]ボタンを押下します。

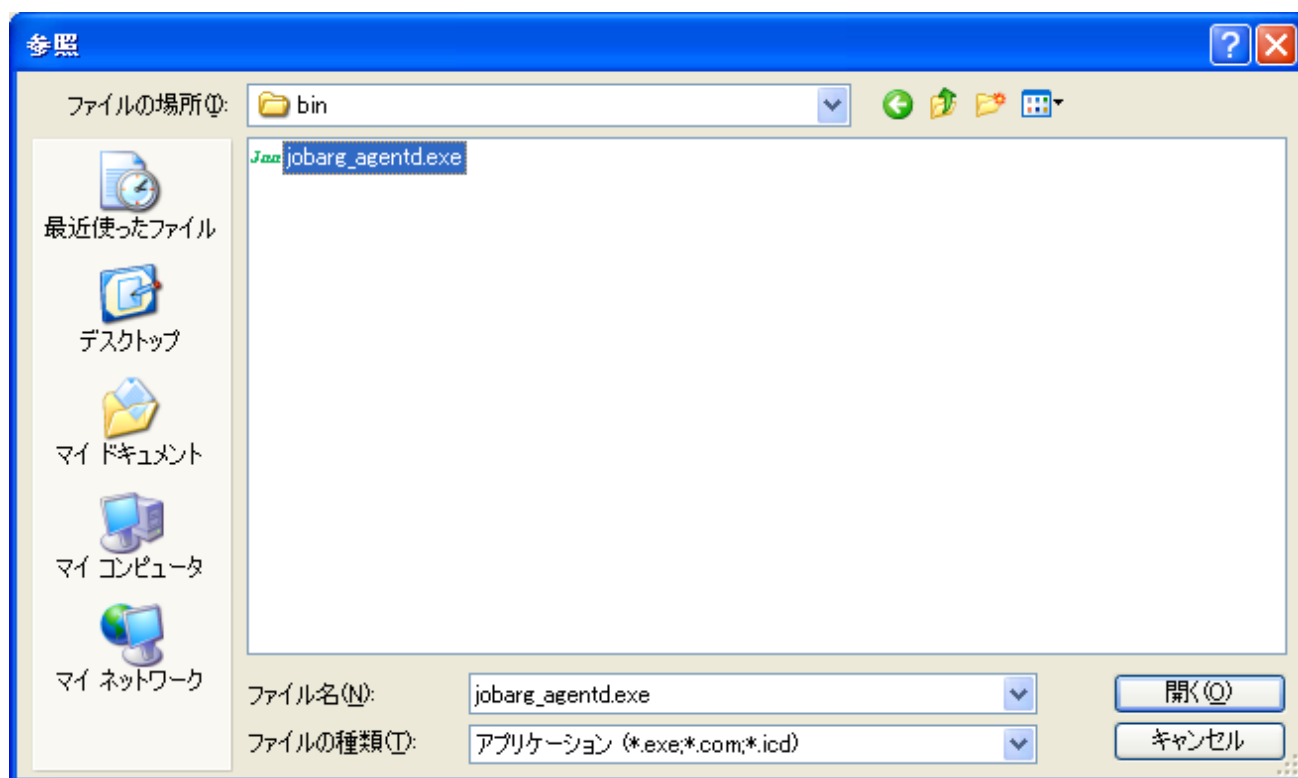


図 4-5 jobarg_agentd.exe の選択

- ⑥ プログラム一覧に「jobarg_agentd.exe」が登録されていることを確認し、[OK]ボタンを押下します。

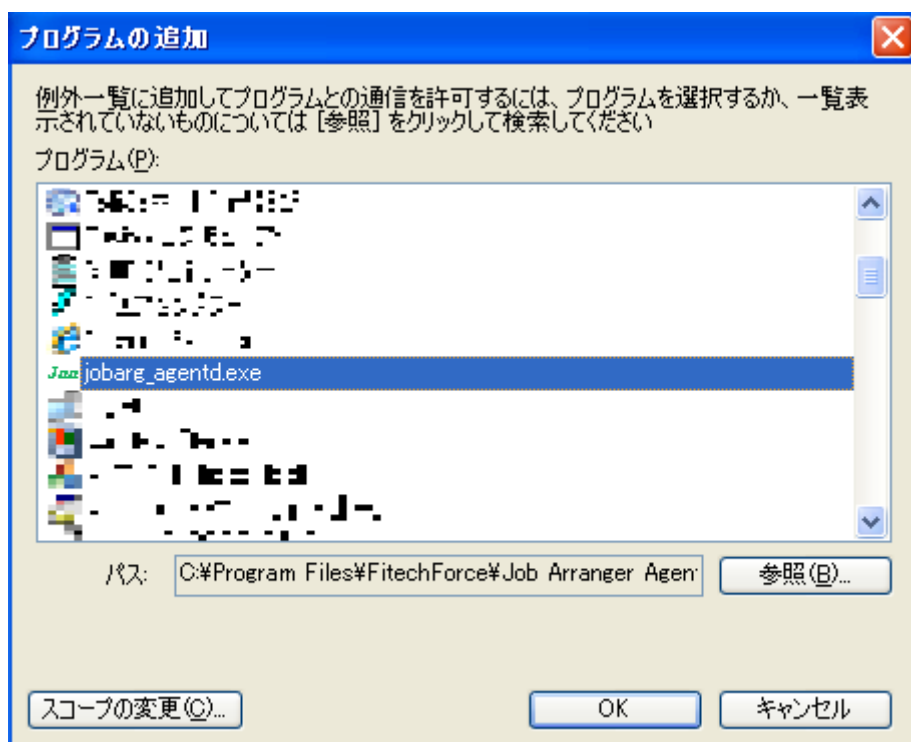


図 4-6 登録後のプログラムの追加画面

- ⑦ プログラムおよびサービス一覧に「jobarg_agentd.exe」が登録されていることを確認し、[OK]ボタンを押下します。

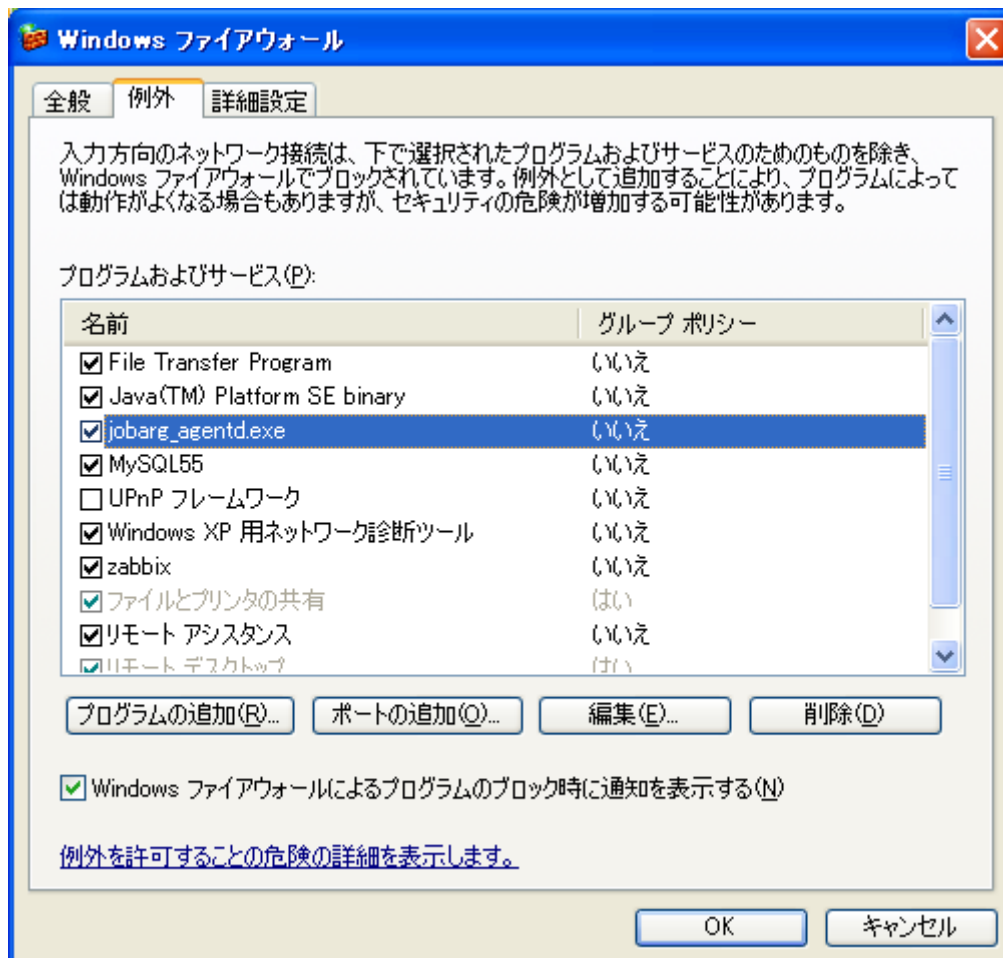


図 4-7 登録後のプログラムおよびサービス一覧

4.3.3 ジョブエージェントの起動

ジョブエージェントを起動させます。

なお、インストール直後の状態は Windows サービスに「スタートアップの種類」が「自動」の状態です。必要に応じて「スタートアップの種類」を変更してください。

- ① 「スタート」→「すべてのプログラム」→「Fitech Force」→「Job Arranger Agent」→「Start Arranger Agent」をクリックし実行する。

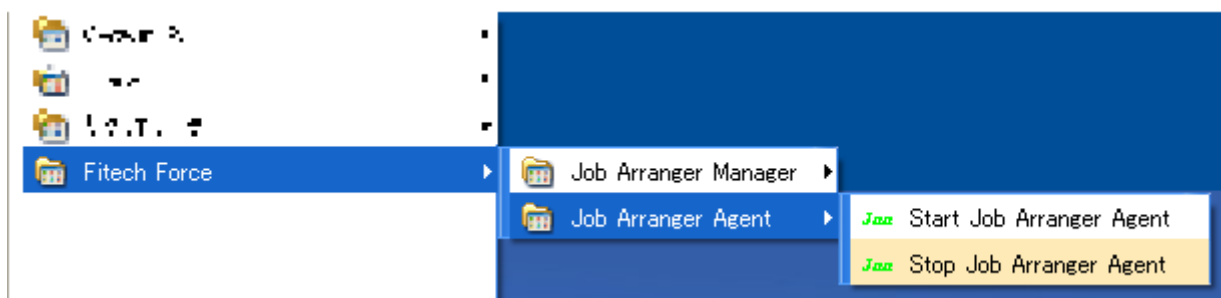


図 4-8 スタートメニュー画面

- ② 「スタート」→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「サービス」でサービスコンソールを開きます。
- ③ サービス一覧から、[Job Arranger Agent]の状態が「開始」であることを確認する。

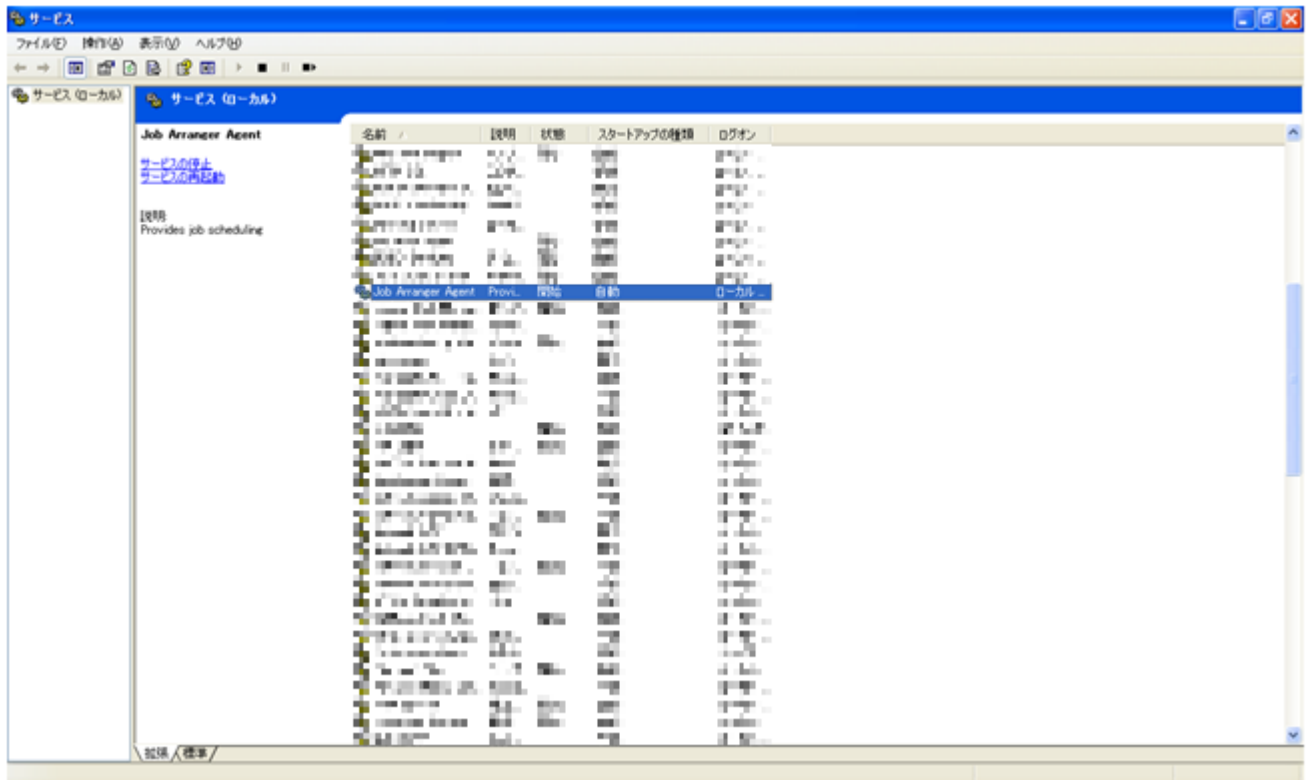


図 4-9 サービス一覧画面

4.4 ジョブマネージャ

4.4.1 ODBC 設定

JobArranger のデータベースへアクセスするために ODBC の設定を以下の通り行います。

- ① 「コントロールパネル」→「管理ツール」→「データ ソース (ODBC)」を開きます。

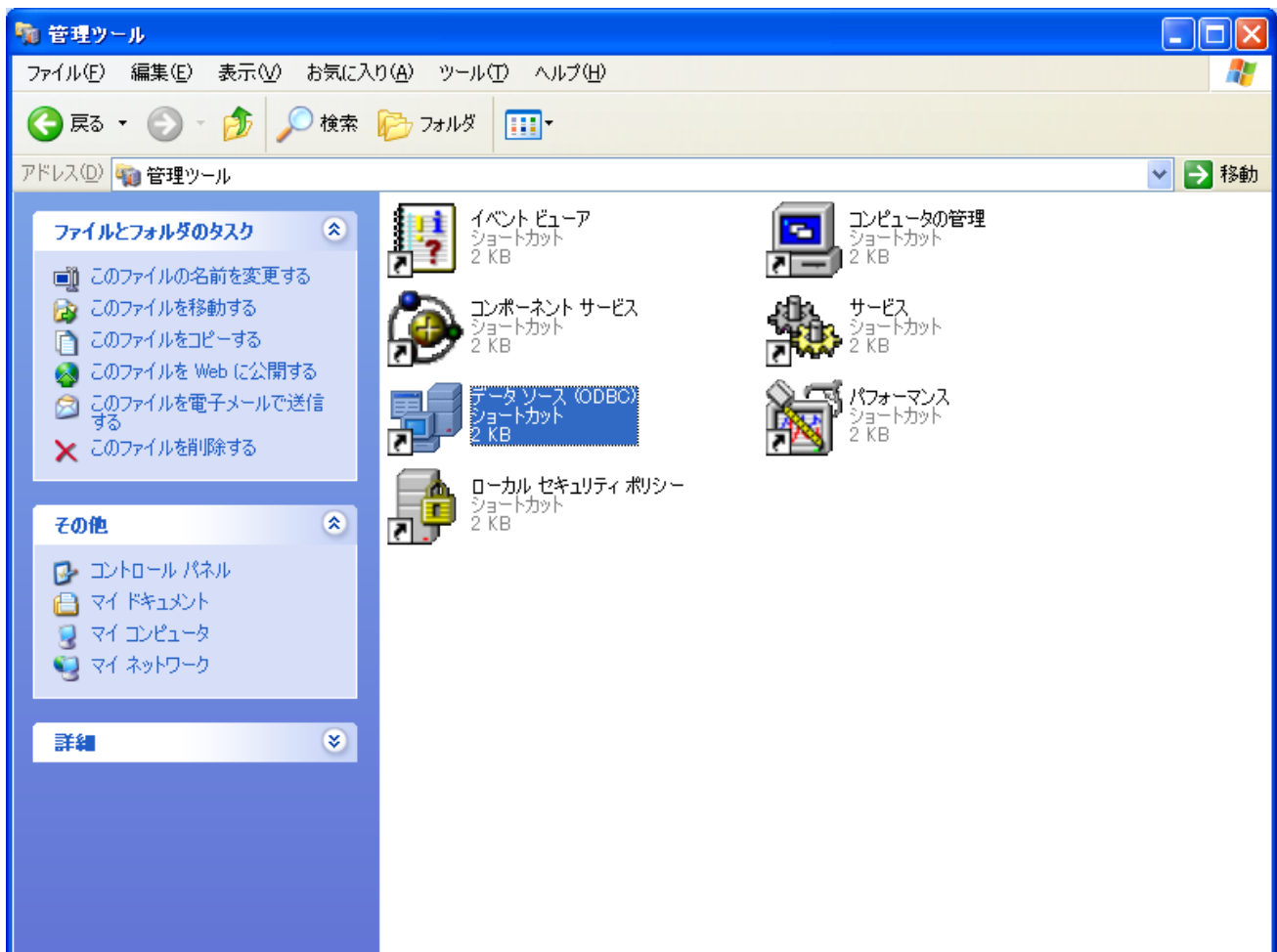


図 4-10 管理ツール画面

- ② 「ODBC データソースアドミニストレータ」画面が表示されたら、「追加」ボタンを押下します。

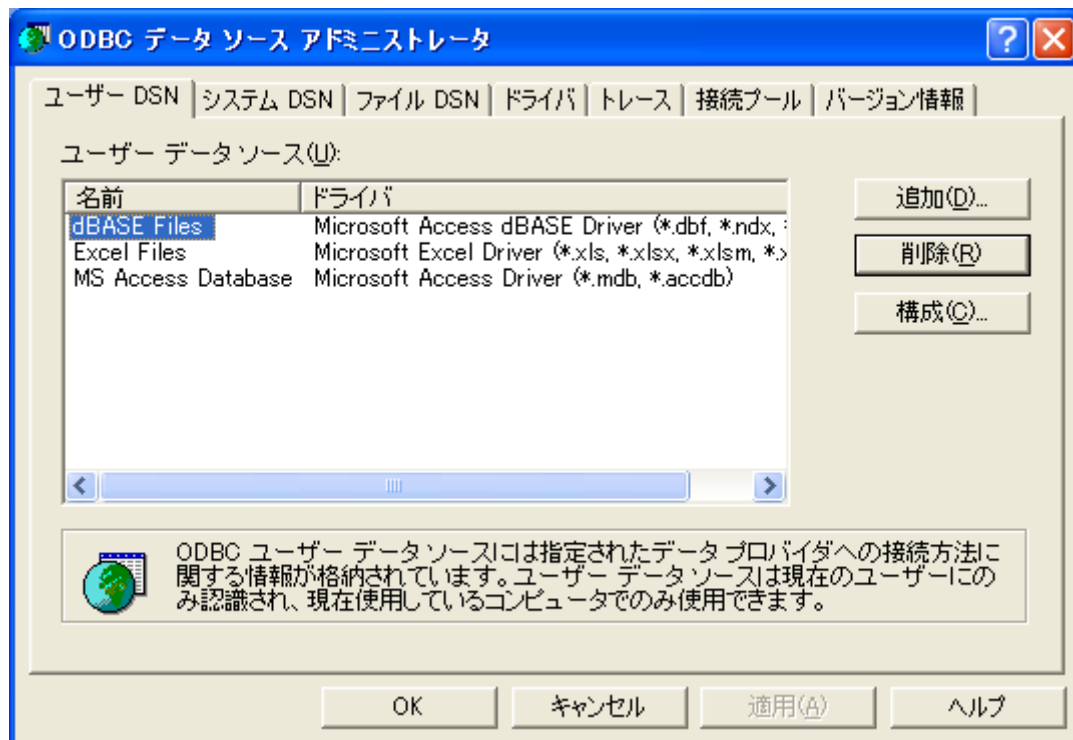


図 4-11 ODBC データソースアドミニストレータ画面

- ③ ドライバ一覧より「MySQL ODBC 5.1 Driver」を選択し、「完了」ボタンを押下します。

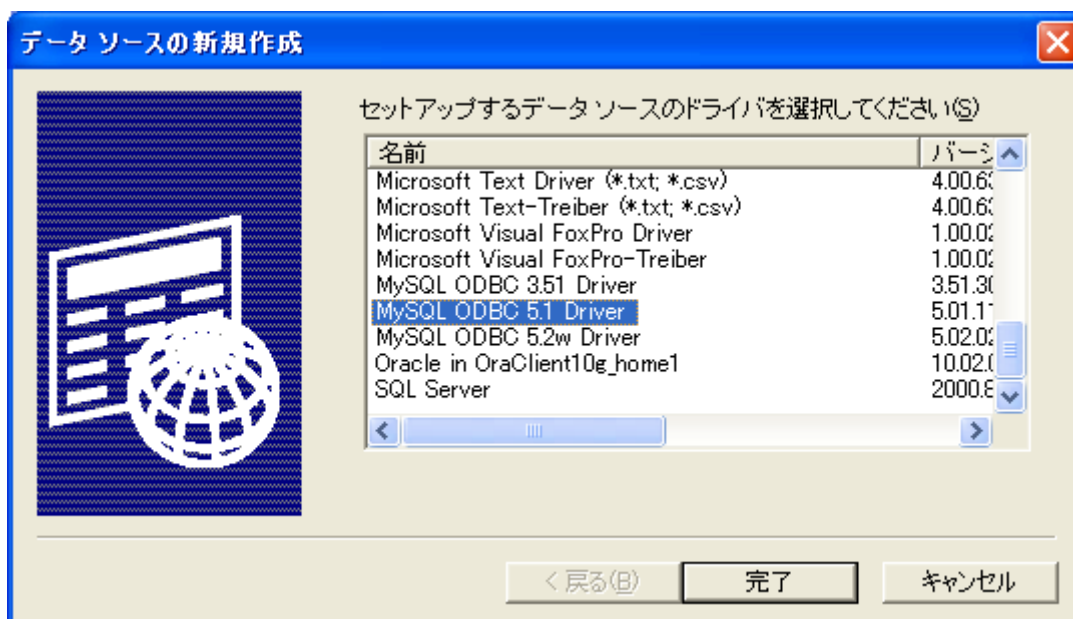


図 4-12 データソースのドライバ選択

- ④ 接続パラメータを入力する。

図 4-13 パラメータ設定画面

表 4-5 ODBC パラメーター一覧

パラメータ	説明
Data Source Name	データソース名
TCP/IP Server	接続先 DB サーバの IP アドレス
User	データベースのユーザ名
Password	データベースのパスワード
Database	接続先 DB のデータベース名

- ⑤ 「test」 ボタンを押下し、「Connection successful」が表示されたら「OK」ボタンを押下します。

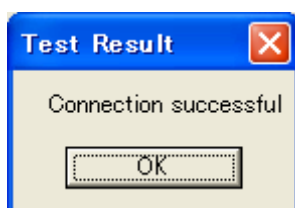


図 4-14 テスト接続成功画面

- ⑥ 「ODBC データソースアドミニストレータ」画面上に追加したデータソースが表示されていれば設定完了です。

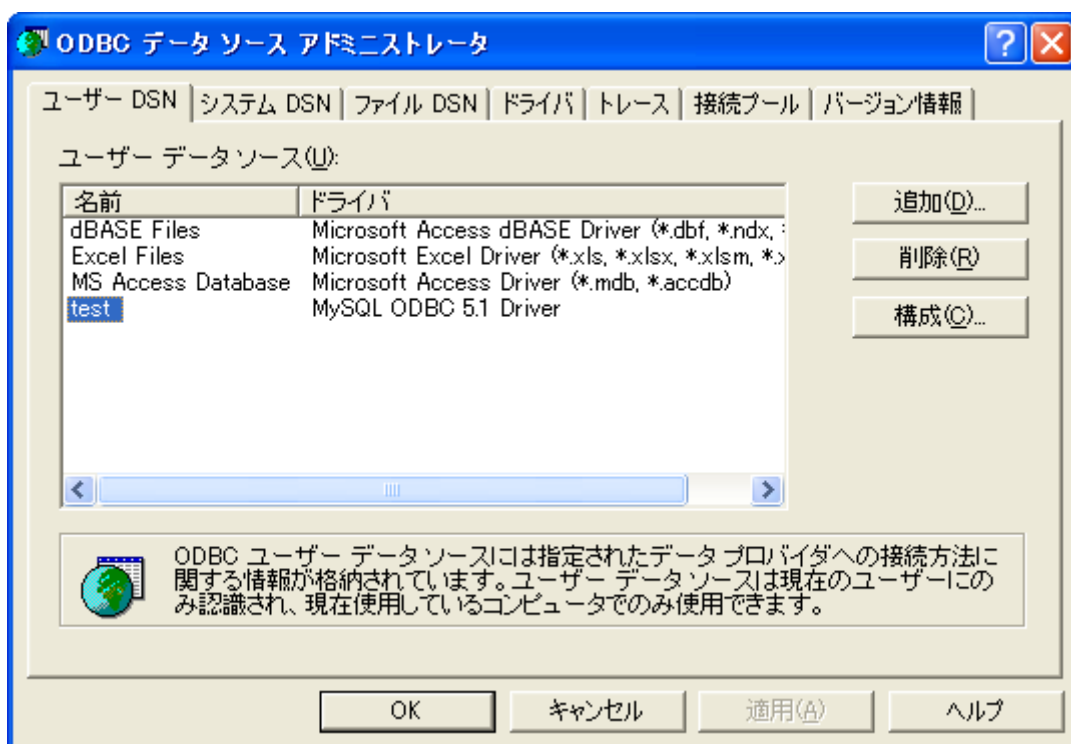


図 4-15 設定完了画面

4.4.2 jobarg_manager.conf の編集

前述で作成したデータソースからジョブマネージャへのアクセスを認識させるため、DB 設定ファイルを編集します。

【対象ファイルパス】

- ・ C:¥Program Files¥FitechForce¥Job Arranger Manager¥conf

【対象ファイル】

- ・ jobarg_manager.conf

```
<DBInfo>
  <JobconName>test</JobconName>
  <DBUser>zabbix</DBUser>
  <DBPassword />zabbix
  <DBSource>test</DBSource>
  <DBType>1</DBType>
</DBInfo>
```

表 4-6 jobarg_manager.conf パラメーター一覧

パラメータ	説明
JobconName	ジョブコントローラ名 ※ログインの際に使用される管理上の名称となります。
DBUser	データベースのユーザ名
DBPassword	データベースのパスワード
DBSource	ODBC 設定のデータソース名
DBType	データベースが Mysql の場合「0」、以外の場合「1」を設定

4.4.3 ジョブマネージャ起動

デスクトップ上の[Job Arranger Manager]アイコンをダブルクリックもしくは、スタートメニューより[Job Arranger Manager]アイコンを選択し、ジョブマネージャを起動します。



図 4-2 アイコン

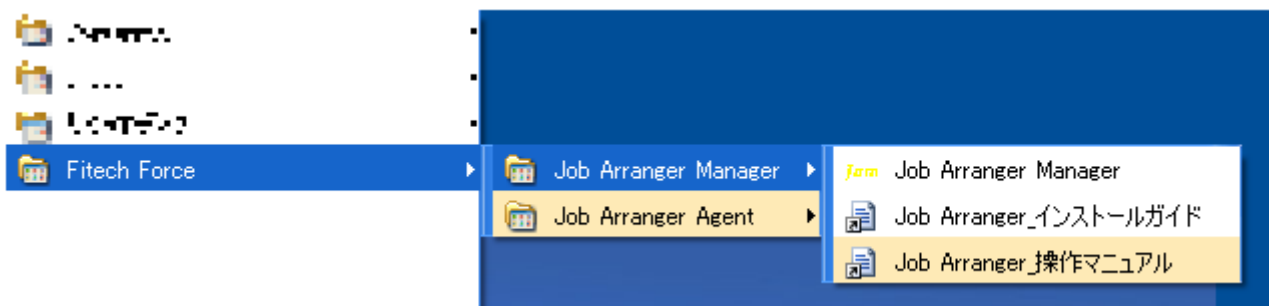


図 4-3 スタートメニュー画面

以下のログイン画面が表示されたら、起動完了です。

Jam ログイン画面

ジョブマネージャへようこそ。

ジョブコントローラにログインするには、ジョブコントローラ名、ユーザー名、パスワードを入力しログインボタンを押します。

ジョブコントローラ名:

ユーザー:

パスワード:

図 4-4 ログイン画面

5 アンインストール

5.1 ジョブサーバー

ジョブサーバーのアンインストールは以下の通りに行います。

- ① サービスの停止を行います。

```
# /etc/init.d/jobarg-server stop
# /etc/init.d/jobarg-agent stop
```

- ② ジョブサーバー/エージェントのアンインストールを行います。

```
# cd /usr/local/src/JobArranger-*.*/trunk
# make uninstall
```

- ③ テーブルの削除

```
# cd /usr/local/src/jobarranger/trunk/database/mysql
# cat MySQL_JA_DROP_TABLE.sql | mysql -u<username> -p<password> <zabbix データベース名>
```

- ④ ソースコードディレクトリの削除を行います。

```
# cd /usr/local/src
# rm -rf jobarranger
```

5.2 ジョブエージェント

5.2.1 UNIX 版

ジョブエージェント(UNIX 版)のアンインストールは以下の通りに行います。

- ① サービスの停止を行います。

```
# /etc/init.d/jobarg-server stop  
# /etc/init.d/jobarg-agent stop
```

- ② ジョブサーバー/エージェントのアンインストールを行います。

```
# cd /usr/local/src/jobarranger-*.*/trunk  
# make uninstall
```

- ④ ソースコードディレクトリの削除を行います。

```
# cd /usr/local/src  
# rm -rf jobarranger
```

※ジョブエージェントのみをアンインストールしたい場合は、インストール時に作成されたディレクトリを手動にて削除してください。

5.2.2 Windows 版

ジョブエージェント(Windows 版)のアンインストールは以下の通りに行います。

- ① 「スタート」→「コントロールパネル」-「管理ツール」-「サービス」でサービスコンソールを開きます。
- ② サービス一覧の中から、[Job Arranger Agent]を右クリックし、「停止」をクリックします。

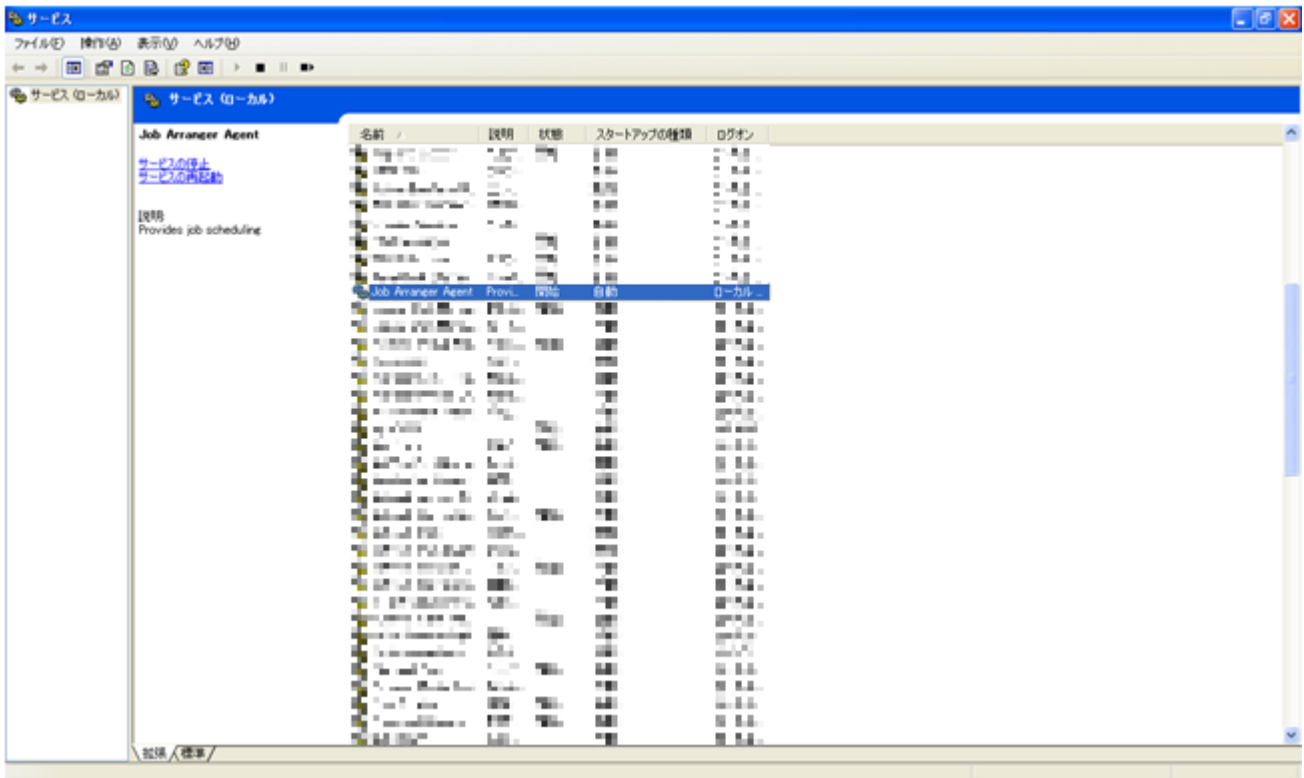


図 5-1 サービス一覧画面

- ③ Installer をダブルクリックし、Job Arranger Agentd セットアップウィザードを起動します。
- ④ 「Job Arranger Agentd の削除」を選択し、「完了」ボタンを押下する。

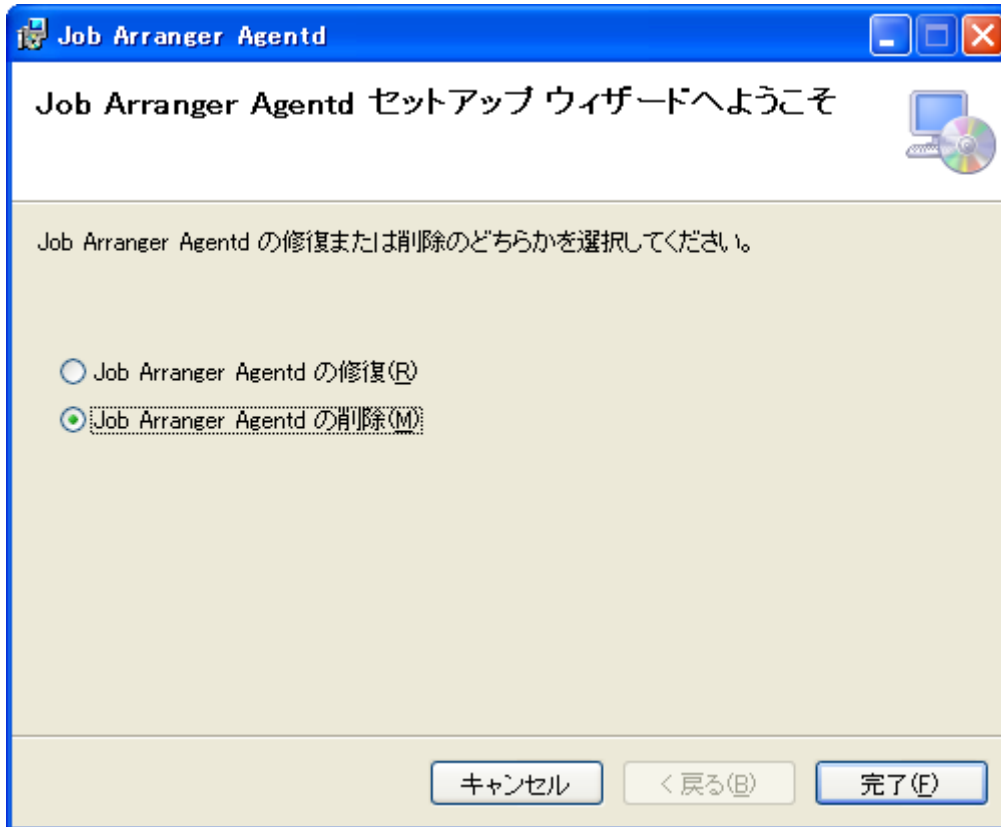


図 5-2 Job Arranger Agentd アンインストール画面

- ⑤ アンインストールが完了しましたら、下記の画面が表示されますので、「閉じる」ボタンを押下します。

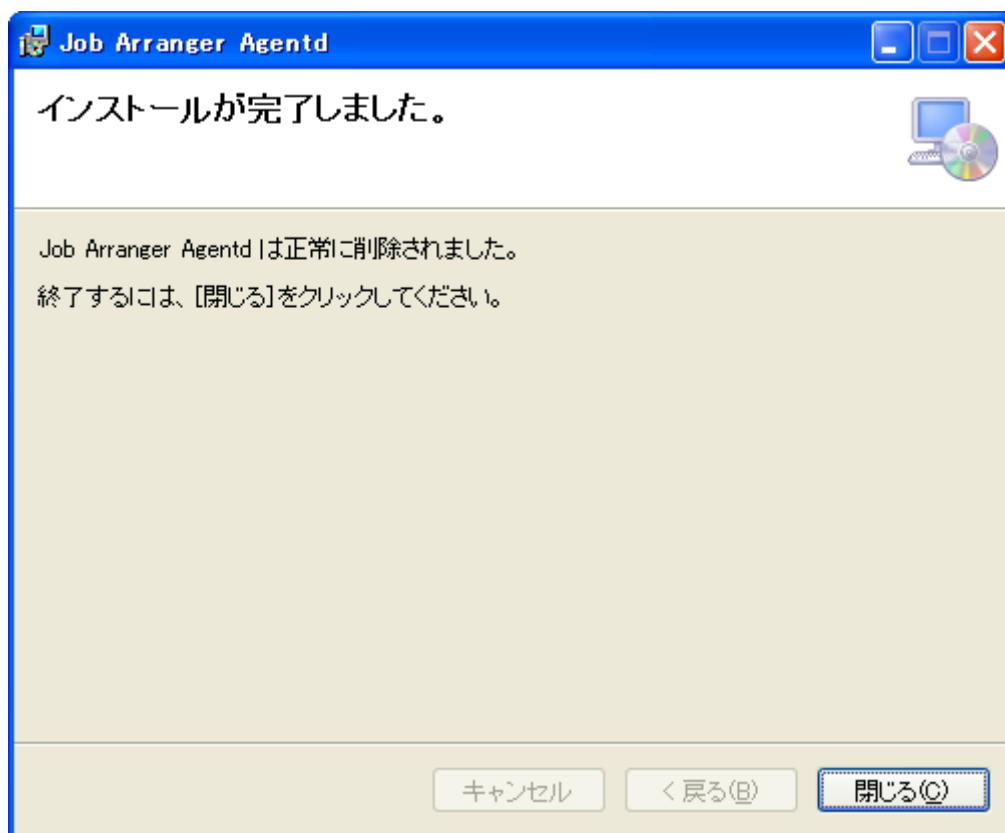


図 5-3 アンインストール完了画面

5.3 ジョブマネージャ

ジョブマネージャのアンインストールは以下の通りに行います。

- ① Installer をダブルクリックし、Job Arranger Manager セットアップウィザードを起動します。
- ② 「Job Arranger Manager の削除」を選択し、「完了」ボタンを押下する。



図 5-4 Job Arranger Manager アンインストール画面

- ③ アンインストールが完了しましたら、下記の画面が表示されますので、「閉じる」ボタンを押下します。

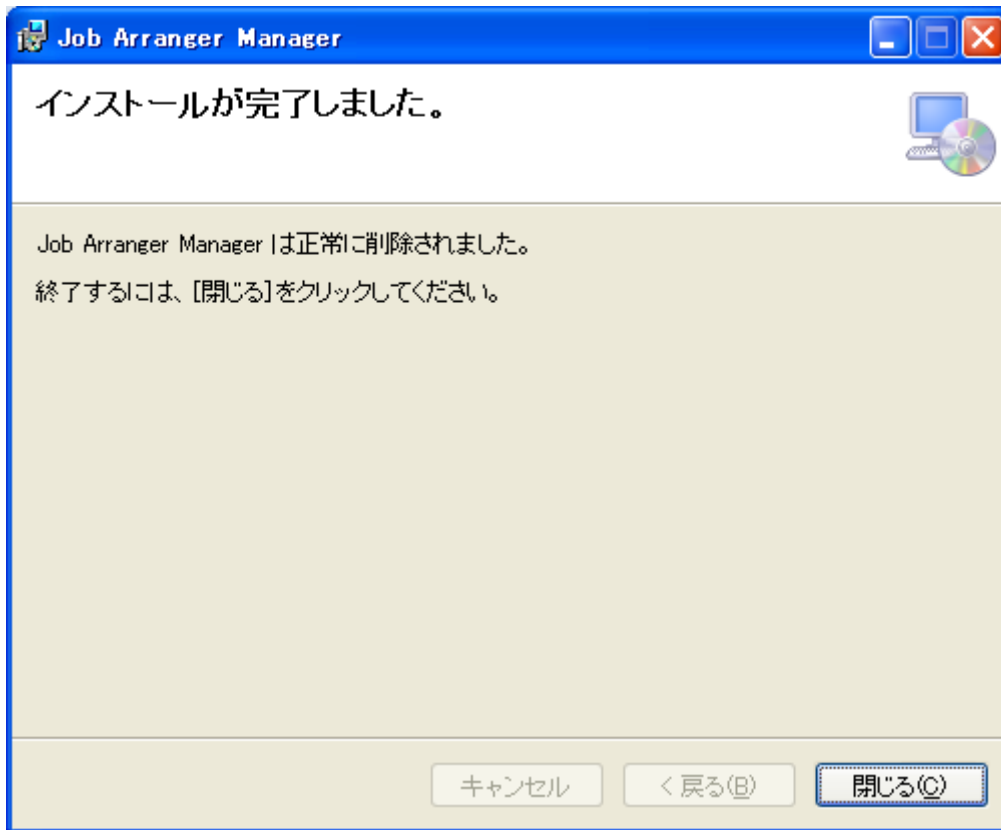


図 5-5 アンインストール完了画面